

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-097284
 (43)Date of publication of application : 08.04.1997

51)Int.Cl. G06F 17/60

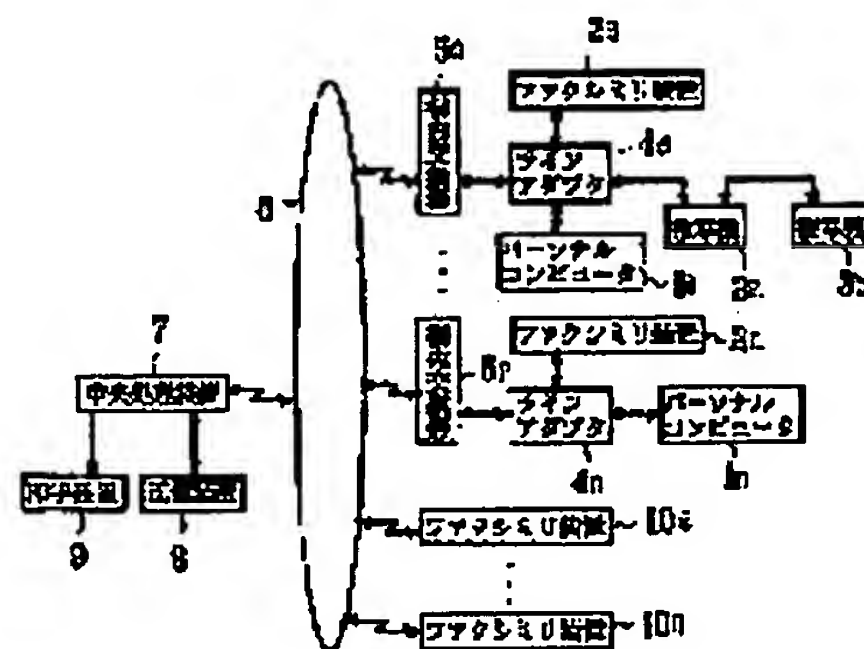
21)Application number : 07-276217 (71)Applicant : RICOH CO LTD
 22)Date of filing : 02.10.1995 (72)Inventor : FUKUSHIMA KAZUYOSHI
 SUZUKI OKIFUMI

54) ORDERING MANAGING EQUIPMENT

57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To reduce the manpower by automatically performing the ordering processing of articles of consumption, etc., and the control of ordering amount, etc.

SOLUTION: Each orderer device transmits the ordering information that a user inputs to a central processing unit 7 via a public line network 6. The summing up processing part of the central processing unit 7 sums up the ordering amount of an ordering section based on the actual ordering record information of the ordering section inputting ordering information and the ordering information from the orderer device, outputs ordering permission information when the summed up ordering amount does not exceed a budget limit amount of the ordering section which is preliminary stored, and prevents the ordering over the budget by each section.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]	20.04.2001
[Date of sending the examiner's decision of rejection]	09.09.2003
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]	
[Date of final disposal for application]	
[Patent number]	3490555
[Date of registration]	07.11.2003
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]	2003-18984
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]	29.09.2003
[Date of extinction of right]	

(51)Int.Cl.⁹
G 0 6 F 17/60

識別記号
庁内整理番号

F I
G 0 6 F 15/21

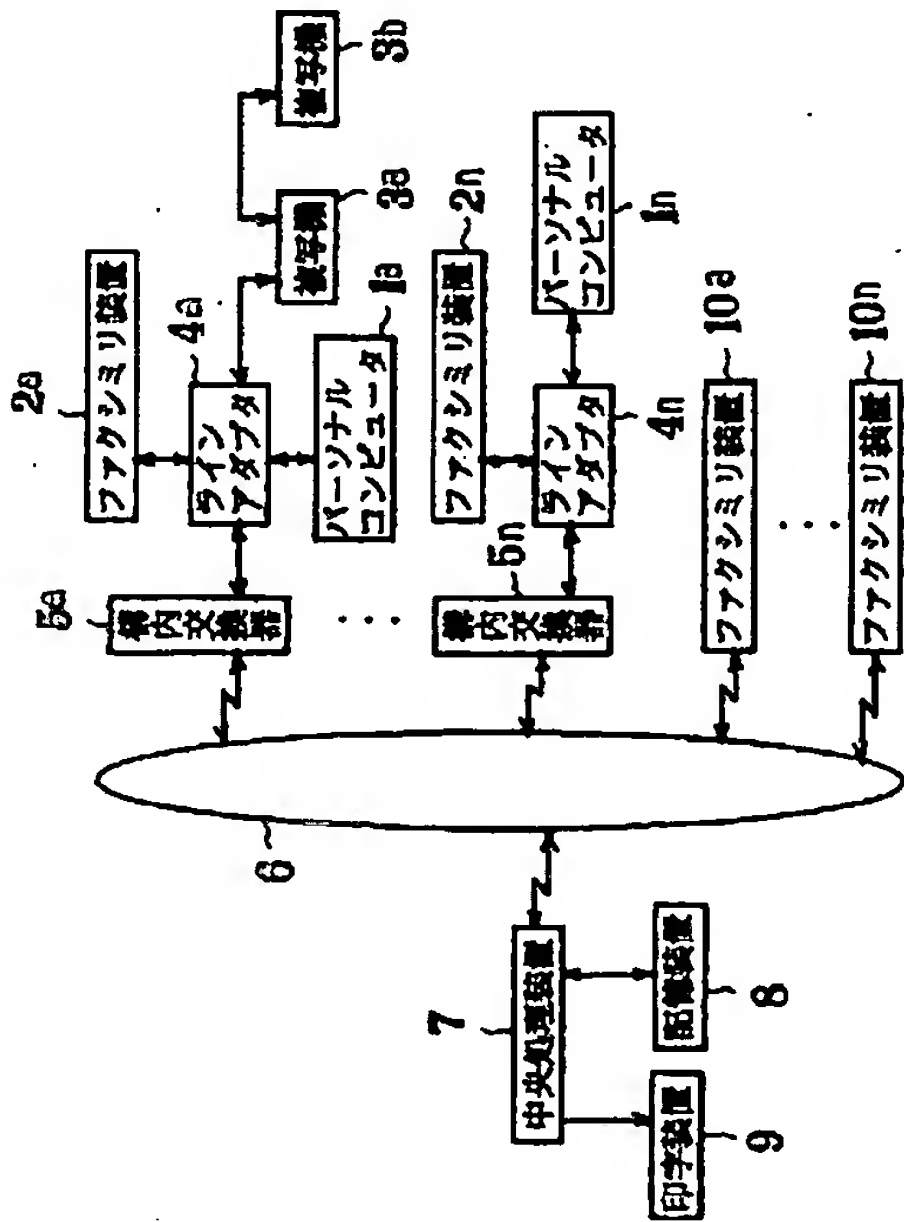
技術表示箇所
3 3 0

審査請求 未請求 請求項の数5 F D (全 7 頁)

(21)出願番号	特願平7-276217	(71)出願人	000006747 株式会社リコー 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
(22)出願日	平成7年(1995)10月2日	(72)発明者	福島 一義 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式 会社リコー内
		(72)発明者	鈴木 興文 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式 会社リコー内
		(74)代理人	弁理士 小島 俊郎

(54)【発明の名称】 発注管理装置

(57)【要約】
【課題】消耗品等の発注及び発注金額等の管理は人手によって行なわれ処理が煩雑である場合が多かった。そこで、発注処理及び発注金額の管理等を自動で行ない工数を低減する。
【解決手段】各発注元装置1、2、3はユーザが入力した発注情報を公衆回線網6を介して中央処理装置7に送る。中央処理装置7の集計処理部は発注情報を入力した発注部門の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に、発注許可情報を出力して、各部門が予算を越えて発注することを防止する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の発注元装置と中央処理装置とを備え、各発注元装置は回線網を介して中央処理装置に接続し、ユーザが入力した発注情報を中央処理装置に送り、中央処理装置は発注部門毎の発注実績情報及び部門情報を管理する集計処理部を有し、集計処理部は発注元装置から発注情報が送られた発注部門の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め部門情報に記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力することを特徴とする発注管理装置。

【請求項2】 発注先毎の発注実績情報及び発注先情報を管理する発注先選択部を有し、発注先選択部は発注先毎の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択する請求項1記載の発注管理装置。

【請求項3】 発注先選択部は発注先毎の発注実績情報を基に各発注先に均等に発注するように発注先を選択する請求項1記載の発注管理装置。

【請求項4】 発注選択部は特定の発注先に対して発注情報の送付を禁止する発注禁止フラグを含む発注先情報を管理し、特定の発注先に対する発注を禁止する請求項1記載の発注管理装置。

【請求項5】 発注先選択部は同一商品及び同等商品を複数の発注先で取り扱っている場合に商品単価が最も安い発注先を選択する請求項1記載の発注管理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は各部門で入力した発注情報を基に自動的に発注を管理する発注管理装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】消耗品等の発注を行なう場合、総務部門又は各部門の庶務等の担当者が発注伝票を起票し、業者に対して電話をして発注したり、発注伝票をファクシミリ送信又は郵送して発注している場合が多い。

【0003】さらに、消耗品の予算及び発注実績等の経費の管理は人手によって行なわれている場合が多い。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、総務部門又は各部門の庶務等の担当者が個別に発注伝票を起票し発注するのでは、処理が煩雑で工数がかかる上に予算及び発注実績等の経費の管理が困難であった。

【0005】さらに、各部門の担当者が個別に発注するので、各部門で個別に発注先等の情報を持たなければならず発注先の管理も困難であった。

【0006】この発明はかかる短所を解消するためになされたものであり、各部門で入力した発注情報を基に発

注管理を自動的に行ない発注処理を容易にすることを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】この発明に係る発注管理装置は、複数の発注元装置と中央処理装置とを備え、各発注元装置は回線網を介して中央処理装置に接続し、ユーザが入力した発注情報を中央処理装置に送り、中央処理装置は集計処理部を有し、集計処理部は発注部門毎の発注実績情報及び部門情報を管理し、発注元装置から発注情報が送られた発注部門の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め部門情報に記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力して、各部門が予算を越えて発注することを防止する。

【0008】また、発注先選択部は発注先毎の発注実績情報及び発注先情報を管理し、発注先毎の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択して、予め定めた発注先毎の発注限度額を越えて発注することを防止する。

【0009】また、発注先選択部は各発注先毎の発注実績情報を基に各発注先に均等に発注するように発注先を選択して、特定の発注先に対する発注が集中することを防止する。

【0010】また、発注先選択部は特定の発注先に対して発注情報の送付を禁止する発注禁止フラグを含む発注先情報を管理し特定の発注先に対する発注を禁止して、発注の振り分けを容易にする。

【0011】また、発注先選択部は同一商品及び同等の商品を複数の発注先で取り扱っている場合に商品の単価が最も安い発注先を選択して発注金額を低減する。

【0012】

【発明の実施の形態】この発明の発注管理装置は、例えば社内の各部門で入力した発注情報を自動的に集計し、集計結果に応じて発注処理を行ない発注工数の低減及び発注の管理を行なうものである。

【0013】発注管理装置は、例えば社内の各部門に設置された発注元装置と中央処理装置を備える。発注元装置は、例えばパーソナルコンピュータ及びファクシミリ装置等のオフィスオートメーション機器等から成り、公衆回線網及び構内回線網等を介して中央処理装置に接続し、ユーザが入力した消耗品等の発注先、品名又は品番、発注数等の発注情報を公衆回線網又は構内回線網を介して中央処理装置に送る。

【0014】中央処理装置は、例えば発注部門毎の発注実績情報と発注先毎の発注実績情報と部門情報と発注先情報と商品情報とを記憶する記憶装置と、集計結果及び発注情報等を印字出力する印字装置を接続する。また、中央処理装置は、例えば発注情報の出力先として、公衆

回線網を介して複数の発注先装置を接続する。中央処理装置は、例えば集計処理部と発注先選択部とファクシミリ編集部と通信制御部とインターフェイス回路を有する。集計処理部は発注部門毎の発注実績情報及び部門情報を管理し、発注部門の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め部門情報に記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力して、各部門が予算を越えて発注することを防止する。発注先選択部は発注先毎の発注実績情報及び発注先情報を管理し、発注先毎の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択して、予め定めた発注先毎の発注限度額を超えて発注することを防止する。ファクシミリ編集部は発注情報をファクシミリ画像情報に編集する。通信制御部は発注先装置等との通信を行なう。インターフェイス回路は記憶装置等との接続を行なう。

【0015】発注元装置から通信制御部を介して発注情報を受けると、集計処理部は発注元装置から受信した発注情報と記憶装置に記憶した発注部門毎の情報を基に発注部門の発注金額を累計する。集計処理部は累計した発注金額が発注部門の予算限度額を越えている場合は通信制御部を介して発注元装置に発注を拒否する旨を送信し、発注金額累計が発注部門の予算限度額を越えていない場合は、発注許可情報を出力する。集計処理部が発注許可情報を出力すると発注情報をファクシミリ編集部で画像情報に編集して、公衆回線網を介して該当する発注先装置に送る。なお、発注先装置の選択は後に説明するように、例えば記憶装置に記憶した発注先毎の発注実績情報等を基に発注先選択部で決める。

【0016】発注先装置は、例えばファクシミリ装置からなり、公衆回線網を介して中央処理装置に接続し、中央処理装置から受信した発注情報を印字出力する。このように、発注情報等を基に発注金額の集計をし、部門情報内に記憶した発注部門の予算限度額の範囲内で自動的に発注するので、発注工数を低減できると共に、各部門毎に予め定めた発注限度額を越えて発注することを防止できる。

【0017】また、中央処理装置の発注先選択部は発注元装置からの発注情報と記憶装置に記憶した発注先毎の発注実績情報を基に発注先毎に発注金額を集計し、累計した発注先毎の発注金額が発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択し、ファクシミリ編集部で発注情報を画像情報に編集して、公衆回線網を介して該当する発注先装置に送り、発注先毎に予め定めた発注限度額を超えて発注することを防止するようにしても良い。

【0018】また、中央処理装置の発注先選択部は発注先毎の発注実績情報を基に各発注先に均等に発注するよ

うに発注先を選択して、特定の発注先に発注が集中することを防止しても良い。例えば、発注の度に発注した発注先の優先順位を最も低くし、他の発注先の優先順位を順に上げることにより、全ての発注先に対して順に発注がなされるようにする。

【0019】また、発注先選択部は発注先情報に、例えば発注禁止フラグを設け一定期間特定の発注先装置に対して発注情報の送付を禁止して、発注の振り分けを容易に行なうことができるようにしても良い。なお、発注禁止フラグは、例えば既に発注した金額の合計がその発注先に対して予め定めた発注金額の上限値に達している場合等につける。この場合は発注禁止期間は、例えば期の終了日までの期間となる。

【0020】また、発注先選択部は記憶装置に記憶した商品情報等を検索した結果、発注しようとする商品と同一品及び同等品が複数の発注先で扱っている場合に、商品情報等から商品の金額が最も安い発注先を選択して発注金額の低減を図るようにしても良い。

【0021】

【実施例】図1はこの発明の一実施例の発注管理装置の構成図である。図に示すように、発注管理装置は発注元装置としてパーソナルコンピュータ1a~1n、ファクシミリ装置2a、2b及び複写機3a~3nを備え、パーソナルコンピュータ1a~1n等からの発注情報を基に集計処理及び発注処理を行なう装置として中央処理装置7、記憶装置8及び印字装置9を備え、発注先装置としてファクシミリ装置10a~10nを備える。

【0022】発注元装置であるパーソナルコンピュータ1a~1n、ファクシミリ装置2a、2b及び複写機3a~3nはそれぞれ社内の各部門及び支店等に設置され、ラインアダプタ4a~4n及び構内交換器5a~5nを介して公衆回線網6に接続する。発注元装置であるパーソナルコンピュータ1a~1n、ファクシミリ装置2a、2b及び複写機3a~3nは、例えば消耗品等の発注先、品名又は品番、発注数等の発注情報を入力し、入力した発注情報を公衆回線網6を介して中央処理装置6に送る。

【0023】パーソナルコンピュータ1a~1n等からの発注情報を基に集計処理及び発注処理を行なう装置である中央処理装置7は、例えば図2に示すように主制御部71、ROM72、RAM73、記憶装置インターフェイス74、印字装置インターフェイス75、集計処理部76、発注先選択部77、通信制御部78及びファクシミリ編集部79を有する。主制御部71はROM72に記憶したシステムプログラム等を基に中央処理装置7全体の動作を制御する。集計処理部76は記憶装置8に記憶した発注部門毎の発注実績情報及び部門情報を管理し、発注部門の発注実績情報及び発注元装置であるパーソナルコンピュータ1a~1n等からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め

記憶装置8に記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力して、各部門が予算を越えて発注することを防止する。発注先選択部77は記憶装置8に記憶した発注先毎の発注実績情報及び発注先情報を管理し、発注先毎の発注実績情報及び発注元装置であるパーソナルコンピュータ1a~1n等からの発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め記憶装置8の発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先装置を選択して、予め定めた発注先毎の発注限度額を超えて発注することを防止する。ファクシミリ編集部79はパーソナルコンピュータ1a~1n等から受信した発注情報をファクシミリ送信用の画情報に編集する。

【0024】記憶装置8は、例えば図3に示すように業者マスタ81、部門マスタ82、商品マスタ83、商品テーブル84及び発注ファイル85を記憶する。業者マスタ81は、例えば図4に示すように発注先毎の発注実績情報、発注先情報及び発注先の管理情報として、発注先業者を示す業者コード81a、発注先の優先順位を示す発注優先順位81b、発注の限度金額を示す発注上限値81c、発注した金額の合計を示す発注金額81d、一定期間発注を禁止する発注禁止フラグ81e、発注を禁止する期間を示す禁止期間81f、業者の担当部署を示す業者担当部署81g、業者の担当者を示す業者担当者名81h、業者の電話番号81i及びファクシミリ番号81jを記憶する。

【0025】部門マスタ82は、例えば図5に示すように部門情報及び部門毎の発注実績情報として、発注元の部門を表わす部門コード82a、発注元の部門の名称を表わす部門名82b、発注元の経費コードを示す経費コード82c、発注元部門が一定期間に発注をする予定金額を示す期予算額82d、業者に発注した金額の累計である使用金額82e、発注元である顧客の住所を表わす顧客住所82f、顧客側の担当者名を示す顧客担当者名82g、顧客の電話番号を示す電話番号82h及び顧客のファクシミリ番号82iを記憶する。商品マスタ83は、例えば図6に示すように商品情報として、品名83a、業者における商品のコードである業者品名コード83b、商品の単価83c及び当該商品の取扱い業者名である業者コード83dを記憶する。ここで、商品マスタ83の業者コード83dは業者マスタ81の業者コード81aと対応する。

【0026】商品テーブル84は発注するとき作成して使用する一時的なテーブルで、例えば図7に示すように品名84a、業者品名コード84b、単価84c、業者コード84d及び発注優先順位84eを一時的に記憶する。発注元のパーソナルコンピュータ1a~1n等から受信した発注情報の品名と商品マスタ83の品名83aを比較して一致した場合に対応する業者品名コード83b、単価83c、業者コード83dを読み出してそれ

ぞれ商品テーブル84の品名84a、業者品名コード84b、単価84c、業者コード84dに入れ、業者コード83dを基に業者マスタ81を読み、対応する発注優先順位81bを読み込み、商品テーブル84の発注優先順位84eに入れることにより商品テーブル84のレコードを作成し、業者に対する発注が完了するとレコードを削除する。発注ファイル85は、例えば図8に示すように部門毎の発注実績情報及び発注先毎の発注実績情報の明細として、部門コード85a、発注月日85b、業者コード85c、品名85d、数量85e及び当該商品の発注金額である金額85fを記憶する。印字装置9は発注ファイル85又は部門マスタ82等の内容を印字出力する。

【0027】発注先装置であるファクシミリ装置10a~10nはそれぞれ発注先の業者の事務所等に設置され、中央処理装置7からの発注情報を印字出力する。

【0028】次に、上記構成の発注管理装置の動作を、図9のフローチャートを参照して説明する。

【0029】発注元では、例えばパーソナルコンピュータ1aから発注元部門コード、発注を依頼する品名、数量及び希望納期等の発注情報を入力し、その後、発注先を単価優先で選択するかそれとも業者別の優先順で選択するかの発注条件を入力する(ステップS1)。パーソナルコンピュータ1aは入力した発注情報及び発注条件等を公衆回線網6を介して中央処理装置7に対して送信する。中央処理装置7の集計処理部76は発注情報を受信すると(ステップS2)、記憶装置8に記憶した商品マスタ83を検索し、受信した発注情報に含まれる品名が登録された品名か否かを検査する。受信した発注情報に含まれる品名が発注できる商品として登録された品名でない場合は(ステップS3)、集計処理部76は通信制御部78を介してパーソナルコンピュータ1aに該当する品名が登録されていない旨のエラーメッセージを送信し、パーソナルコンピュータ1aからエラーメッセージを表示した後に処理を中止する(ステップS4)。これにより、品名間違いなどを防止することができる。

【0030】発注情報に含まれる品名が商品マスタ83に登録された品名である場合は、発注先選択部77は発注情報の品名と商品マスタ83の品名83aを比較して一致した場合に一致した業者のレコードを読み出して業者品名コード83b、単価83c、業者コード83dをそれぞれ商品テーブル84の品名84a、業者品名コード84b、単価84c、業者コード84dに入れ、業者コード83dを基に業者マスタ81を読み、対応する発注優先順位81bを読み込み、商品テーブル84の発注優先順位84eに入れることにより商品テーブル84を作成する(ステップS5)。なお、発注禁止フラグ81eが立っている業者は読みとばすものとする。中央処理装置7の発注先選択部77はパーソナルコンピュータ1aから受信した発注条件が単価優先で業者を選択する

ように指定してあるかかそれとも業者の優先順位順に業者を選択するように指定してあるかを調べ、単価優先の場合は商品テーブル84を低単価順及び発注優先順にソートする。発注先選択部77は業者優先が指定されている場合は、商品テーブル84を発注優先順にソートして、業者を選択する(ステップS6)。

【0031】中央処理装置7の集計処理部76は商品テーブル84の一番最初の業者の単価84cを読み出し、読み出した単価84cと発注情報の発注数を掛けて発注金額を算出する。集計処理部76は発注情報に含まれた10 発注元部門コードを基に部門マスタ82を検索し、該当する部門コード82aの使用金額82eに上記発注金額を足して、発注元部門の発注金額累計を求める。また、集計処理部76は選択した業者の業者コードを基に業者マスタ81を検索し、該当する業者コード81aの発注金額81dに上記発注金額を足して、発注先の発注金額累計を求める(ステップS7)。集計処理部76は発注元部門の発注金額累計が該当部門の期予算額82dを越えている場合は、パーソナルコンピュータ1aに部門予算を越える旨を示すエラーメッセージを送り(ステップS8)、パーソナルコンピュータ1aでエラーメッセージを表示した後に(ステップS9)処理を終了する。これにより、特定の部門が予算を越えて発注することを防止できる。

【0032】中央処理装置7の発注先選択部77は、次ぎに発注先の発注金額累計額と該当する発注先業者の発注上限値81cを比較し、発注金額累計額が発注上限値81cを越えている場合は(ステップS10)、商品テーブル84の次ぎの業者のレコードを読み出して、集計処理及び発注金額累計処理等を繰り返す(ステップS6 30 ~S10)。これにより、特定の発注先に過剰の注文が集中することを防止できる。

【0033】中央処理装置7の発注先選択部77は発注元部門の発注金額累計が該当部門の期予算額82dを越えていない場合で、かつ、該当業者に対する発注金額累計額が発注上限値81cを越えていない場合は、業者マスタ81の発注金額81dを該当業者に対する発注金額累計額で置き換えて、業者マスタ81を更新する。また、集計処理部76は部門マスタ82の使用金額82eを上記発注元部門の発注金額累計で置き換えて部門マスタ82を更新する(ステップS11)。その後、中央処理装置7のファクシミリ編集部79は部門マスタ82から発注元の部門名82b、顧客住所82f、顧客担当者名82g、電話番号82h及びファクシミリ番号82iを読み出してファクシミリ送信する注文伝票の画像データを作成し(ステップS12)、業者マスタ81から該当業者のファクシミリ番号81jを取り出して、発注先装置であるファクシミリ装置、例えばファクシミリ装置10aに送信し発注する(ステップS13)。

【0034】ファクシミリ装置10aは受信した注文伝

票を印字出力して(ステップS14)、業者は出力した注文伝票を確認して受注処理を行なう(ステップS15)。

【0035】中央処理装置7の主制御部71は注文伝票の送信を終えると、発注元であるパーソナルコンピュータ1aに発注完了メッセージを送り(ステップS16)、パーソナルコンピュータ1aから発注完了メッセージを表示した後に(ステップS17)、発注ファイル85に発注レコードを追加し発注ファイル85を更新し(ステップS18)、商品テーブル84の各レコードを削除し(ステップS19)、次ぎの発注情報を受信する準備をする。

【0036】なお、上記実施例では発注元のパーソナルコンピュータ1a等と中央処理装置7が離れているリモートセンタ型の発注管理装置について説明したが、図10に示すように発注元のパーソナルコンピュータ1a等と中央処理装置7を同一の建物の中に設置したローカル型にしても良い。

【0037】また、上記実施例では業者マスタ81の発注優先順位81bを固定にしたが、発注するたびに発注した業者の発注優先順位81bを最も低くして、全ての業者が順に発注されるようにしても良い。これにより、特定の発注先に発注が集中することを防止することができる。

【0038】また、業者マスタ81の発注金額81dを検索し発注金額81dが少ない順に発注先を選択するようにして、特定の発注先に発注が集中することを防止しても良い。

【0039】また、実施例では発注実績情報をすぐに検索できるように発注のたびに部門マスタ82の使用金額82eに記憶しているが、発注ファイル85を基に計算するようにしても良い。

【0040】また、実施例では発注先装置10a~10nに発注情報を出力したが、印字装置9から印字出力して、担当部署で一括して業者に送るようにしても良い。

【0041】

【発明の効果】この発明は以上説明したように、中央処理装置は部門毎に発注金額を累計し、累計した発注金額が発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力するので、発注部門が部門毎に定めた予算限度額を超えて発注することを防止することができる。

【0042】また、中央処理装置は発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択するので、発注先毎に定めた発注限度額を超えて発注することを防止することができる。

【0043】また、中央処理装置は各発注先に均等に発注するように発注先を選択するので、特定の発注先に発注が集中することを防止することができる。

【0044】また、一定期間特定の発注先装置に対して

発注情報の送付を禁止するので、発注の際に発注したばかりの発注先装置を発注先の対象から除外することができ、発注の振り分けが容易にできる。

【0045】また、中央処理装置は同一品及び同等品を複数の発注先で取り扱っている場合に商品の単価が最も安い発注先を選択するので、発注金額を低減することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例を示す構成図である。

【図2】中央処理装置の構成図である。

【図3】記憶装置の構成図である。

【図4】業者マスタの構成図である。

【図5】部門マスタの構成図である。

【図6】商品マスタの構成図である。

【図7】商品テーブルの構成図である。

【図8】発注ファイルの構成図である。

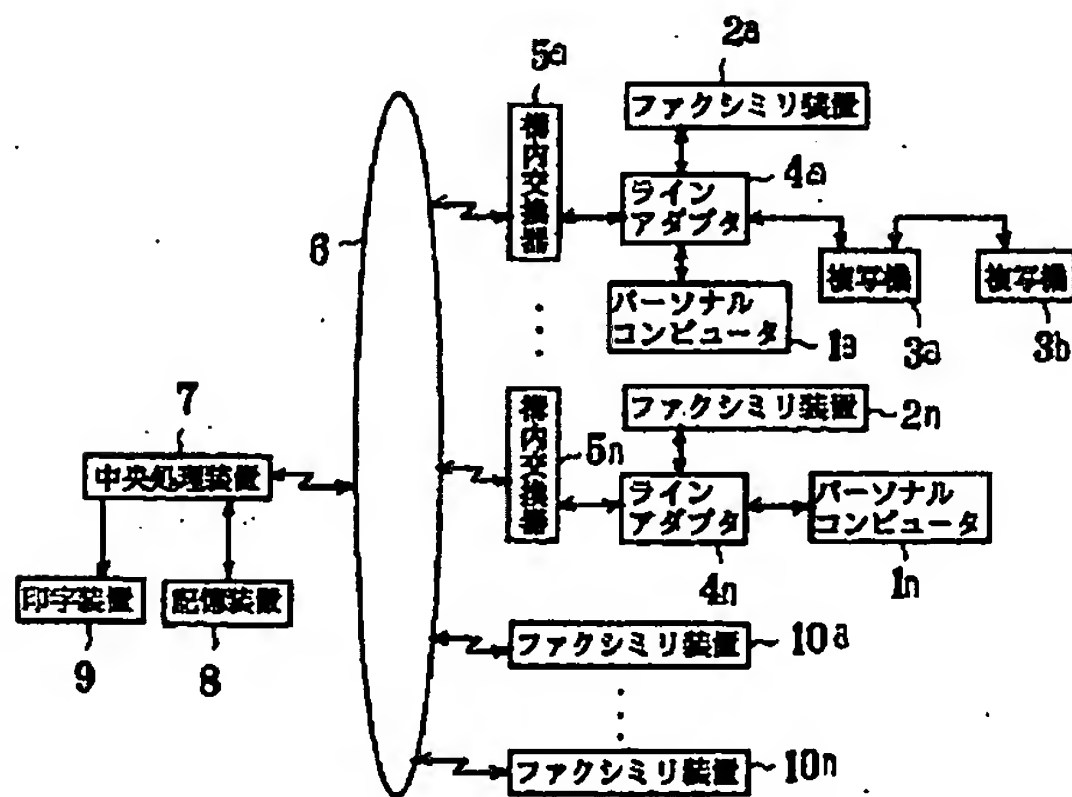
【図9】発注管理装置の動作を示すフローチャートである。

*【図10】他の発注管理装置の構成図である。

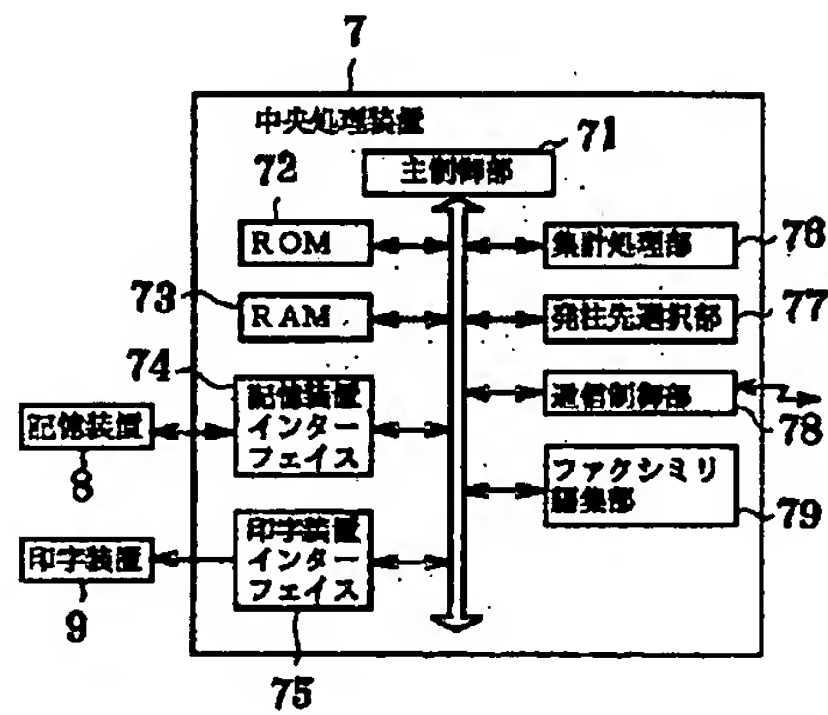
【符号の説明】

- 1 パーソナルコンピュータ
- 10 ファクシミリ装置
- 2 ファクシミリ装置
- 3 複写機
- 6 公衆回線網
- 7 中央処理装置
- 76 集計処理部
- 77 発注先選択部
- 79 ファクシミリ編集部
- 8 記憶装置
- 81 業者マスタ
- 82 部門マスタ
- 83 商品マスタ
- 84 商品テーブル
- 85 発注ファイル
- 9 印字装置

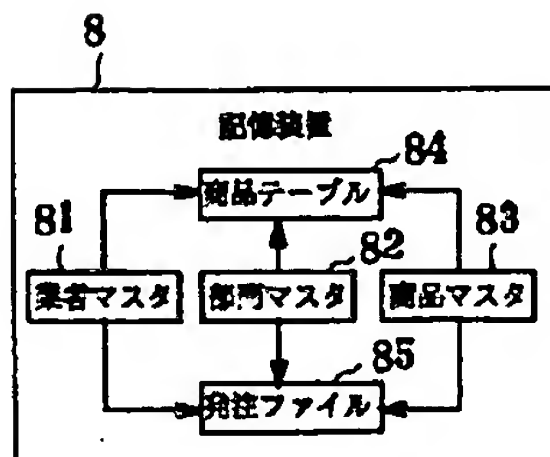
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

81a	81b	81c	81d	81e	81f	81g	81h	81i	81j
業者コード	発注優先順位	発注上取値	発注金額	発注禁止フラグ	禁止期間	業者担当部署	業者担当人名	電話番号	ファクシミリ番号
業者コード	発注優先順位	発注上取値	発注金額	発注禁止フラグ	禁止期間	業者担当部署	業者担当人名	電話番号	ファクシミリ番号
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
業者コード	発注優先順位	発注上取値	発注金額	発注禁止フラグ	禁止期間	業者担当部署	業者担当人名	電話番号	ファクシミリ番号

【図5】

82a	82b	82c	82d	82e	82f	82g	82h	82i
部門 コード	部門名	経費 コード	期予算額	使用金額	顧客住所	顧客 担当者名	電話番号	ファクシミリ 番号
部門 コード	部門名	経費 コード	期予算額	使用金額	顧客住所	顧客 担当者名	電話番号	ファクシミリ 番号
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
部門 コード	部門名	経費 コード	期予算額	使用金額	顧客住所	顧客 担当者名	電話番号	ファクシミリ 番号

82

【図6】

83a	83b	83c	83d
品名	業者品名 コード	単価	業者 コード
品名	業者品名 コード	単価	業者 コード
⋮	⋮	⋮	⋮
品名	業者品名 コード	単価	業者 コード

83

【図7】

84a	84b	84c	84d	84e
品名	業者品名 コード	単価	業者 コード	発注 優先順位
品名	業者品名 コード	単価	業者 コード	発注 優先順位
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
品名	業者品名 コード	単価	業者 コード	発注 優先順位

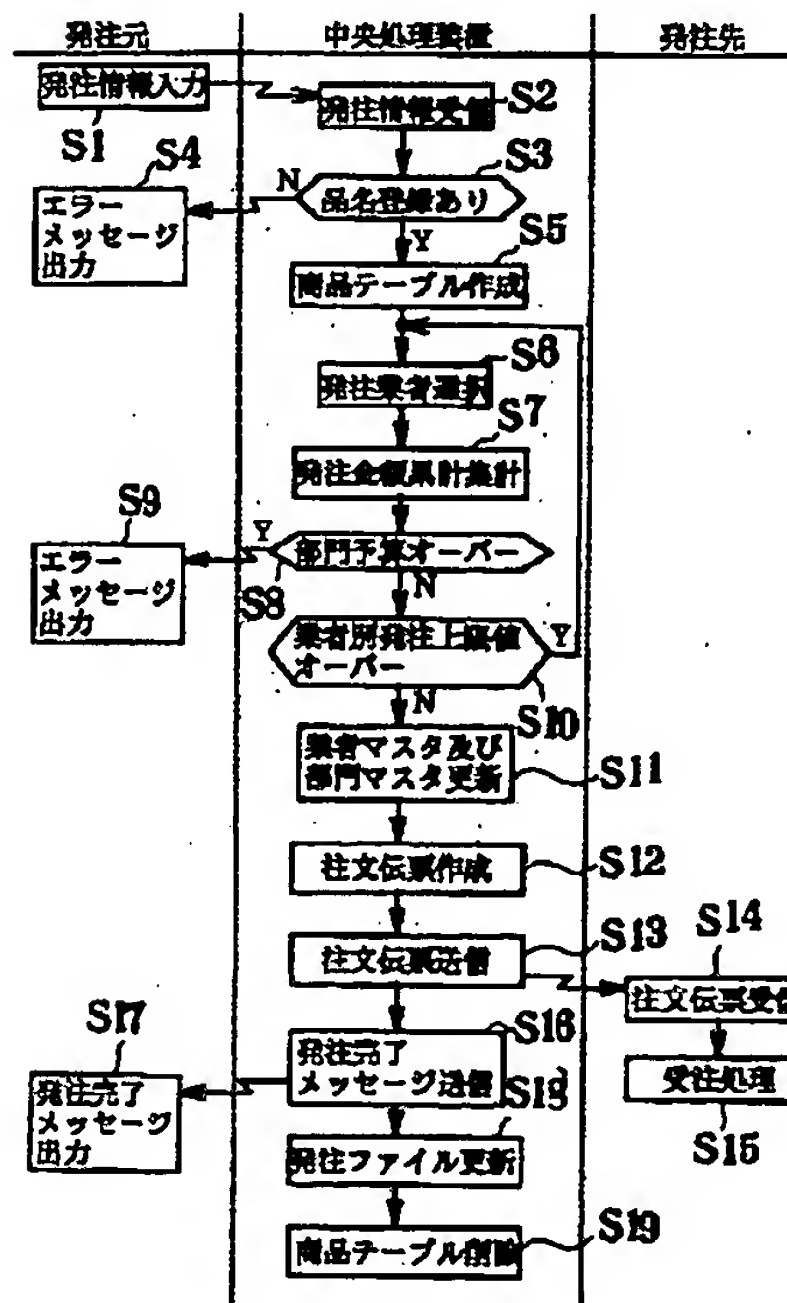
84

【図8】

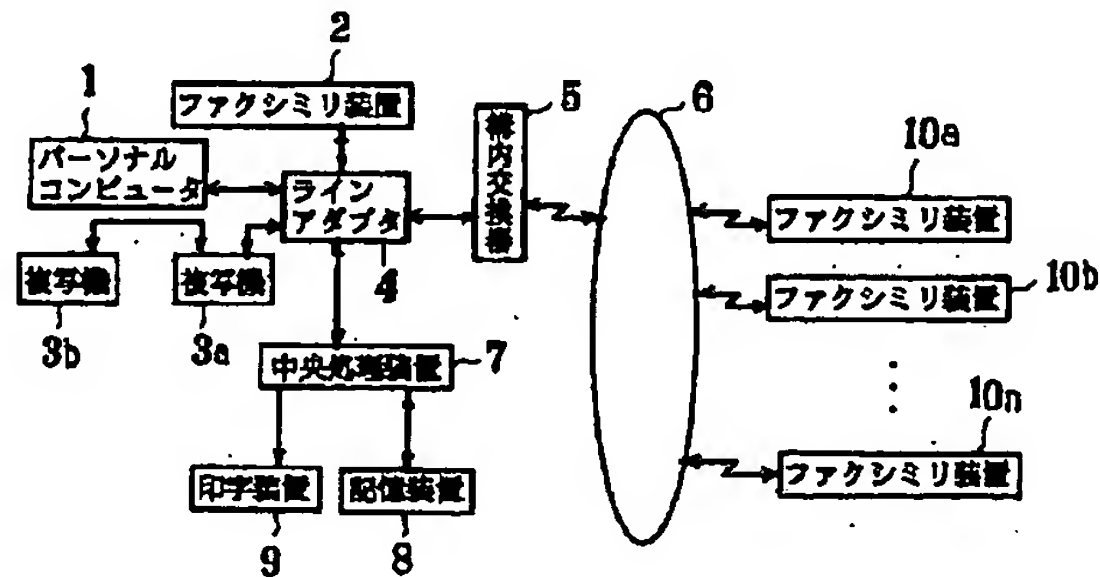
85a	85b	85c	85d	85e	85f
部門 コード	発注月日	業者 コード	品名	数量	金額
部門 コード	発注月日	業者 コード	品名	数量	金額
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
部門 コード	発注月日	業者 コード	品名	数量	金額

85

【図9】



【図10】



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】平成13年11月22日(2001.11.22)

【公開番号】特開平9-97284
 【公開日】平成9年4月8日(1997.4.8)
 【年通号数】公開特許公報9-973
 【出願番号】特願平7-276217
 【国際特許分類第7版】

G06F 17/60
 【F1】
 G06F 15/21 330

【手続補正書】
 【提出日】平成13年4月20日(2001.4.20)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正内容】
 【書類名】 明細書
 【発明の名称】 発注管理装置及び発注管理方法
 【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の発注元装置と中央処理装置とを備え、各発注元装置は回線網を介して中央処理装置に接続し、ユーザが入力した発注情報を中央処理装置に送り、中央処理装置は発注部門毎の発注実績情報及び部門情報を管理する集計処理部を有し、集計処理部は発注元装置から発注情報が送られた発注部門の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め部門情報に記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力することを特徴とする発注管理装置。

【請求項2】 発注先毎の発注実績情報及び発注先情報を管理する発注先選択部を有し、発注先選択部は発注先毎の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択する請求項1記載の発注管理装置。

【請求項3】 発注先選択部は発注先毎の発注実績情報を基に各発注先に均等に発注するように発注先を選択する請求項2記載の発注管理装置。

【請求項4】 発注選択部は特定の発注先に対して発注情報の送付を禁止する発注禁止フラグを含む発注先情報を管理し、特定の発注先に対する発注を禁止する請求項2記載の発注管理装置。

【請求項5】 発注先選択部は同一商品及び同等商品を複数の発注先で取り扱っている場合に商品単価が最も安

い発注先を選択する請求項2記載の発注管理装置。

【請求項6】 少なくとも発注元部門情報と発注金額情報を含む発注情報を通信回線を介して受付けるステップと、前記発注金額情報を前記発注元部門情報に対応させて予め設定された予算限度額情報と比較するステップと、前記発注金額が前記予算限度額を超えない場合に発注元部門に対する発注許可情報を通信回線を經由して出力するステップとを有することを特徴とする発注管理方法。

【請求項7】 発注先毎の発注実績情報及び前記発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択する請求項6記載の発注管理方法。

【請求項8】 発注先毎の発注実績情報を基に各発注先に均等に発注するように発注先を選択する請求項7記載の発注管理方法。

【請求項9】 特定の発注先に対して発注情報の送付を禁止する発注禁止フラグを含む発注先情報を管理し、特定の発注先に対する発注を禁止する請求項7記載の発注管理方法。

【請求項10】 同一商品及び同等商品を複数の発注先で取り扱っている場合に商品単価が最も安い発注先を選択する請求項7記載の発注管理方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は各部門で入力した発注情報を基に自動的に発注を管理する発注管理装置及び発注管理方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】消耗品等の発注を行なう場合、総務部門又は各部門の庶務等の担当者が発注伝票を起票し、業者に対して電話をして発注したり、発注伝票をファクシミリ送信又は郵送して発注している場合が多い。

【0003】さらに、消耗品の予算及び発注実績等の経費の管理は人手によって行なわれている場合が多い。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、総務部門又は各部門の庶務等の担当者が個別に発注伝票を起票し発注するのでは、処理が煩雑で工数がかかる上に予算及び発注実績等の経費の管理が困難であった。

【0005】さらに、各部門の担当者が個別に発注するので、各部門で個別に発注先等の情報を持たなければならず発注先の管理も困難であった。

【0006】この発明はかかる短所を解消するためになされたものであり、各部門で入力した発注情報を基に発注管理を自動的に行ない発注処理を容易にすることを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】この発明に係る発注管理装置は、複数の発注元装置と中央処理装置とを備え、各発注元装置は回線網を介して中央処理装置に接続し、ユーザが入力した発注情報を中央処理装置に送り、中央処理装置は集計処理部を有し、集計処理部は発注部門毎の発注実績情報及び部門情報を管理し、発注元装置から発注情報が送られた発注部門の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め部門情報に記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力して、各部門が予算を越えて発注することを防止する。

【0008】また、発注先選択部は発注先毎の発注実績情報及び発注先情報を管理し、発注先毎の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択して、予め定めた発注先毎の発注限度額を超えて発注することを防止する。

【0009】また、発注先選択部は各発注先毎の発注実績情報を基に各発注先に均等に発注するように発注先を選択して、特定の発注先に対する発注が集中することを防止する。

【0010】また、発注先選択部は特定の発注先に対して発注情報の送付を禁止する発注禁止フラグを含む発注先情報を管理し特定の発注先に対する発注を禁止して、発注の振り分けを容易にする。

【0011】また、発注先選択部は同一商品及び同等の商品を複数の発注先で取り扱っている場合に商品の単価が最も安い発注先を選択して発注金額を低減する。

【0012】更に、別の発明としての発注管理方法は、少なくとも発注元部門情報と発注金額情報を含む発注情報を通信回線を介して受付けるステップと、発注金額情報を発注元部門情報に対応させて予め設定された予算限度額情報と比較するステップと、発注金額が予算限度額を超えない場合に発注元部門に対する発注許可情報を通信回線を経由して出力するステップとを有する。よって、発注部門が部門毎に定めた予算限度額を超えて発注

することを防止することができる。

【0013】

【発明の実施の形態】この発明の発注管理装置は、例えば社内の各部門で入力した発注情報を自動的に集計し、集計結果に応じて発注処理を行ない発注工数の低減及び発注の管理を行なうものである。

【0014】発注管理装置は、例えば社内の各部門に設置された発注元装置と中央処理装置を備える。発注元装置は、例えばパーソナルコンピュータ及びファクシミリ装置等のオフィスオートメーション機器等から成り、公衆回線網及び構内回線網等を介して中央処理装置に接続し、ユーザが入力した消耗品等の発注先、品名又は品番、発注数等の発注情報を公衆回線網又は構内回線網を介して中央処理装置に送る。

【0015】中央処理装置は、例えば発注部門毎の発注実績情報と発注先毎の発注実績情報と部門情報と発注先情報と商品情報とを記憶する記憶装置と、集計結果及び発注情報等を印字出力する印字装置を接続する。また、中央処理装置は、例えば発注情報の出力先として、公衆回線網を介して複数の発注先装置を接続する。中央処理装置は、例えば集計処理部と発注先選択部とファクシミリ編集部と通信制御部とインターフェイス回路を有する。集計処理部は発注部門毎の発注実績情報及び部門情報を管理し、発注部門の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め部門情報に記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力して、各部門が予算を越えて発注することを防止する。発注先選択部は発注先毎の発注実績情報及び発注先情報を管理し、発注先毎の発注実績情報及び発注元装置からの発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択して、予め定めた発注先毎の発注限度額を超えて発注することを防止する。ファクシミリ編集部は発注情報をファクシミリ画像情報に編集する。通信制御部は発注先装置等との通信を行なう。インターフェイス回路は記憶装置等との接続を行なう。

【0016】発注元装置から通信制御部を介して発注情報を受けると、集計処理部は発注元装置から受信した発注情報と記憶装置に記憶した発注部門毎の情報を基に発注部門の発注金額を累計する。集計処理部は累計した発注金額が発注部門の予算限度額を越えている場合は通信制御部を介して発注元装置に発注を拒否する旨を送信し、発注金額累計が発注部門の予算限度額を越えていない場合は、発注許可情報を出力する。集計処理部が発注許可情報を出力すると発注情報をファクシミリ編集部で画情報に編集して、公衆回線網を介して該当する発注先装置に送る。なお、発注先装置の選択は後に説明するように、例えば記憶装置に記憶した発注先毎の発注実績情

報等を基に発注先選択部で決める。

【0017】発注先装置は、例えばファクシミリ装置からなり、公衆回線網を介して中央処理装置に接続し、中央処理装置から受信した発注情報を印字出力する。このように、発注情報等を基に発注金額の集計をし、部門情報内に記憶した発注部門の予算限度額の範囲内で自動的に発注するので、発注工数を低減できると共に、各部門毎に予め定めた発注限度額を越えて発注することを防止できる。

【0018】また、中央処理装置の発注先選択部は発注元装置からの発注情報と記憶装置に記憶した発注先毎の発注実績情報を基に発注先毎に発注金額を集計し、集計した発注先毎の発注金額が発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択し、ファクシミリ編集部で発注情報を画像情報に編集して、公衆回線網を介して該当する発注先装置に送り、発注先毎に予め定めた発注限度額を越えて発注することを防止するようにしても良い。

【0019】また、中央処理装置の発注先選択部は発注先毎の発注実績情報を基に各発注先に均等に発注するように発注先を選択して、特定の発注先に発注が集中することを防止しても良い。例えば、発注の度に発注した発注先の優先順位を最も低くし、他の発注先の優先順位を順に上げることににより、全ての発注先に対して順に発注がなされるようにする。

【0020】また、発注先選択部は発注先情報に、例えば発注禁止フラグを設け一定期間特定の発注先装置に対して発注情報の送付を禁止して、発注の振り分けを容易に行なうことができるようにしても良い。なお、発注禁止フラグは、例えば既に発注した金額の合計がその発注先に対して予め定めた発注金額の上限値に達している場合等につける。この場合は発注禁止期間は、例えば期の終了日までの期間となる。

【0021】また、発注先選択部は記憶装置に記憶した商品情報等を検索した結果、発注しようとする商品と同一品及び同等品が複数の発注先で扱っている場合に、商品情報等から商品の金額が最も安い発注先を選択して発注金額の低減を図るようにしても良い。

【0022】

【実施例】図1はこの発明の一実施例の発注管理装置の構成図である。図に示すように、発注管理装置は発注元装置としてパーソナルコンピュータ1a～1n、ファクシミリ装置2a、2b及び複写機3a～3nを備え、パーソナルコンピュータ1a～1n等からの発注情報を基に集計処理及び発注処理を行なう装置として中央処理装置7、記憶装置8及び印字装置9を備え、発注先装置としてファクシミリ装置10a～10nを備える。

【0023】発注元装置であるパーソナルコンピュータ1a～1n、ファクシミリ装置2a、2b及び複写機3a～3nはそれぞれ社内の各部門及び支店等に設置され、ラインアダプタ4a～4n及び構内交換器5a～5

nを介して公衆回線網6に接続する。発注元装置であるパーソナルコンピュータ1a～1n、ファクシミリ装置2a、2b及び複写機3a～3nは、例えば消耗品等の発注先、品名又は品番、発注数等の発注情報を入力し、入力した発注情報を公衆回線網6を介して中央処理装置7に送る。

【0024】パーソナルコンピュータ1a～1n等からの発注情報を基に集計処理及び発注処理を行なう装置である中央処理装置7は、例えば図2に示すように主制御部71、ROM72、RAM73、記憶装置インターフェイス74、印字装置インターフェイス75、集計処理部76、発注先選択部77、通信制御部78及びファクシミリ編集部79を有する。主制御部71はROM72に記憶したシステムプログラム等を基に中央処理装置7全体の動作を制御する。集計処理部76は記憶装置8に記憶した発注部門毎の発注実績情報及び部門情報を管理し、発注部門の発注実績情報及び発注元装置であるパーソナルコンピュータ1a～1n等からの発注情報を基に発注部門の発注金額を累計し、累計した発注金額が予め記憶装置8に記憶した発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力して、各部門が予算を越えて発注することを防止する。発注先選択部77は記憶装置8に記憶した発注先毎の発注実績情報及び発注先情報を管理し、発注先毎の発注実績情報及び発注元装置であるパーソナルコンピュータ1a～1n等からの発注情報を基に発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が予め記憶装置8の発注先情報に記憶した発注先毎の発注限度額を越えていない発注先装置を選択して、予め定めた発注先毎の発注限度額を越えて発注することを防止する。ファクシミリ編集部79はパーソナルコンピュータ1a～1n等から受信した発注情報をファクシミリ送信用の画情報に編集する。

【0025】記憶装置8は、例えば図3に示すように業者マスタ81、部門マスタ82、商品マスタ83、商品テーブル84及び発注ファイル85を記憶する。業者マスタ81は、例えば図4に示すように発注先毎の発注実績情報、発注先情報及び発注先の管理情報として、発注先業者を示す業者コード81a、発注先の優先順位を示す発注優先順位81b、発注の限度金額を示す発注上限値81c、発注した金額の合計を示す発注金額81d、一定期間発注を禁止する発注禁止フラグ81e、発注を禁止する期間を示す禁止期間81f、業者の担当部署を示す業者担当部署81g、業者の担当者を示す業者担当者名81h、業者の電話番号81i及びファクシミリ番号81jを記憶する。

【0026】部門マスタ82は、例えば図5に示すように部門情報及び部門毎の発注実績情報として、発注元の部門を表わす部門コード82a、発注元の部門の名称を表わす部門名82b、発注元の経費コードを示す経費コード82c、発注元部門が一定期間に発注をする予定金

額を示す期予算額82d、業者に発注した金額の累計である使用金額82e、発注元である顧客の住所を表わす顧客住所82f、顧客側の担当者名を示す顧客担当者名82g、顧客の電話番号を示す電話番号82h及び顧客のファクシミリ番号82iを記憶する。商品マスタ83は、例えば図6に示すように商品情報として、品名83a、業者における商品のコードである業者品名コード83b、商品の単価83c及び当該商品の取扱い業者名である業者コード83dを記憶する。ここで、商品マスタ83の業者コード83dは業者マスタ81の業者コード81aと対応する。

【0027】商品テーブル84は発注するとき作成して使用する一時的なテーブルで、例えば図7に示すように品名84a、業者品名コード84b、単価84c、業者コード84d及び発注優先順位84eを一時的に記憶する。発注元のパーソナルコンピュータ1a～1n等から受信した発注情報の品名と商品マスタ83の品名83aを比較して一致した場合に対応する業者品名コード83b、単価83c、業者コード83dを読み出してそれぞれ商品テーブル84の品名84a、業者品名コード84b、単価84c、業者コード84dに入れ、業者コード83dを基に業者マスタ81を読み、対応する発注優先順位81bを読み込み、商品テーブル84の発注優先順位84eに入れることにより商品テーブル84のレコードを作成し、業者に対する発注が完了するとレコードを削除する。発注ファイル85は、例えば図8に示すように部門毎の発注実績情報及び発注先毎の発注実績情報の明細として、部門コード85a、発注月日85b、業者コード85c、品名85d、数量85e及び当該商品の発注金額である金額85fを記憶する。印字装置9は発注ファイル85又は部門マスタ82等の内容を印字出力する。

【0028】発注先装置であるファクシミリ装置10a～10nはそれぞれ発注先の業者の事務所等に設置され、中央処理装置7からの発注情報を印字出力する。

【0029】次に、上記構成の発注管理装置の動作を、図9のフローチャートを参照して説明する。

【0030】発注元では、例えばパーソナルコンピュータ1aから発注元部門コード、発注を依頼する品名、数量及び希望納期等の発注情報を入力し、その後、発注先を単価優先で選択するかそれとも業者別の優先順で選択するかの発注条件を入力する（ステップS1）。パーソナルコンピュータ1aは入力した発注情報及び発注条件等を公衆回線網6を介して中央処理装置7に対して送信する。中央処理装置7の集計処理部76は発注情報を受信すると（ステップS2）、記憶装置8に記憶した商品マスタ83を検索し、受信した発注情報に含まれる品名が登録された品名か否かを確認する。受信した発注情報に含まれる品名が発注できる商品として登録された品名でない場合は（ステップS3）、集計処理部76は通信

制御部78を介してパーソナルコンピュータ1aに該当する品名が登録されていない旨のエラーメッセージを送信し、パーソナルコンピュータ1aからエラーメッセージを表示した後に処理を中止する（ステップS4）。これにより、品名間違いなどを防止することができる。

【0031】発注情報に含まれる品名が商品マスタ83に登録された品名である場合は、発注先選択部77は発注情報の品名と商品マスタ83の品名83aを比較して一致した場合に一致した業者のレコードを読み出して業者品名コード83b、単価83c、業者コード83dをそれぞれ商品テーブル84の品名84a、業者品名コード84b、単価84c、業者コード84dに入れ、業者コード83dを基に業者マスタ81を読み、対応する発注優先順位81bを読み込み、商品テーブル84の発注優先順位84eに入れることにより商品テーブル84を作成する（ステップS5）。なお、発注禁止フラグ81eが立っている業者は読みとばすものとする。中央処理装置7の発注先選択部77はパーソナルコンピュータ1aから受信した発注条件が単価優先で業者を選択するように指定してあるかそれとも業者の優先順位順に業者を選択するように指定してあるかを調べ、単価優先の場合は商品テーブル84を低単価順及び発注優先順にソートする。発注先選択部77は業者優先が指定されている場合は、商品テーブル84を発注優先順にソートして、業者を選択する（ステップS6）。

【0032】中央処理装置7の集計処理部76は商品テーブル84の一番最初の業者の単価84cを読み出し、読み出した単価84cと発注情報の発注数を掛けて発注金額を算出する。集計処理部76は発注情報に含まれた発注元部門コードを基に部門マスタ82を検索し、該当する部門コード82aの使用金額82eに上記発注金額を足して、発注元部門の発注金額累計を求める。また、集計処理部76は選択した業者の業者コードを基に業者マスタ81を検索し、該当する業者コード81aの発注金額81dに上記発注金額を足して、発注先の発注金額累計を求める（ステップS7）。集計処理部76は発注元部門の発注金額累計が該当部門の期予算額82dを越えている場合は、パーソナルコンピュータ1aに部門予算を越える旨を示すエラーメッセージを送り（ステップS8）、パーソナルコンピュータ1aでエラーメッセージを表示した後に（ステップS9）処理を終了する。これにより、特定の部門が予算を越えて発注することを防止できる。

【0033】中央処理装置7の発注先選択部77は、次に発注先の発注金額累計額と該当する発注先業者の発注上限値81cを比較し、発注金額累計額が発注上限値81cを越えている場合は（ステップS10）、商品テーブル84の次ぎの業者のレコードを読み出して、集計処理及び発注金額累計処理等を繰り返す（ステップS6～S10）。これにより、特定の発注先に過剰の注文が

集中することを防止できる。

【0034】中央処理装置7の発注先選択部77は発注元部門の発注金額累計が該当部門の期予算額82dを越えていない場合で、かつ、該当業者に対する発注金額累計額が発注上限値81cを越えていない場合は、業者マスタ81の発注金額81dを該当業者に対する発注金額累計額で置き換えて、業者マスタ81を更新する。また、集計処理部76は部門マスタ82の使用金額82eを上記発注元部門の発注金額累計で置き換えて部門マスタ82を更新する(ステップS11)。その後、中央処理装置7のファクシミリ編集部79は部門マスタ82から発注元の部門名82b、顧客住所82f、顧客担当者名82g、電話番号82h及びファクシミリ番号82iを読み出してファクシミリ送信する注文伝票の画像データを作成し(ステップS12)、業者マスタ81から該当業者のファクシミリ番号81jを取り出して、発注先装置であるファクシミリ装置、例えばファクシミリ装置10aに送信し発注する(ステップS13)。

【0035】ファクシミリ装置10aは受信した注文伝票を印字出力して(ステップS14)、業者は出力した注文伝票を確認して受注処理を行なう(ステップS15)。

【0036】中央処理装置7の主制御部71は注文伝票の送信を終えると、発注元であるパーソナルコンピュータ1aに発注完了メッセージを送り(ステップS16)、パーソナルコンピュータ1aから発注完了メッセージを表示した後に(ステップS17)、発注ファイル85に発注レコードを追加し発注ファイル85を更新し(ステップS18)、商品テーブル84の各レコードを削除し(ステップS19)、次ぎの発注情報を受信する準備をする。

【0037】なお、上記実施例では発注元のパーソナルコンピュータ1a等と中央処理装置7が離れているリモートセンタ型の発注管理装置について説明したが、図10に示すように発注元のパーソナルコンピュータ1a等と中央処理装置7を同一の建物の中に設置したローカル型にしても良い。

【0038】また、上記実施例では業者マスタ81の発注優先順位81bを固定にしたが、発注するたびに発注した業者の発注優先順位81bを最も低くして、全ての業者が順に発注されるようにしても良い。これにより、特定の発注先に発注が集中することを防止することができる。

【0039】また、業者マスタ81の発注金額81dを検索し発注金額81dが少ない順に発注先を選択するようにして、特定の発注先に発注が集中することを防止しても良い。

【0040】また、実施例では発注実績情報をすぐに検索できるように発注のたびに部門マスタ82の使用金額82eに記憶しているが、発注ファイル85を基に計算

するようにしても良い。

【0041】また、実施例では発注先装置10a~10nに発注情報を出力したが、印字装置9から印字出力して、担当部署で一括して業者に送るようにしても良い。

【0042】

【発明の効果】この発明は以上説明したように、中央処理装置は部門毎に発注金額を累計し、累計した発注金額が発注部門の予算限度額を越えていない場合に発注許可情報を出力するので、発注部門が部門毎に定めた予算限度額を超えて発注することを防止することができる。

【0043】また、中央処理装置は発注先毎に発注金額を累計し、発注先毎に累計した発注金額が発注先毎の発注限度額を越えていない発注先を選択するので、発注先毎に定めた発注限度額を超えて発注することを防止することができる。

【0044】また、中央処理装置は各発注先に均等に発注するように発注先を選択するので、特定の発注先に発注が集中することを防止することができる。

【0045】また、一定期間特定の発注先装置に対して発注情報の送付を禁止するので、発注の際に発注したばかりの発注先装置を発注先の対象から除外することができ、発注の振り分けが容易にできる。

【0046】また、中央処理装置は同一品及び同等品を複数の発注先で取り扱っている場合に商品の単価が最も安い発注先を選択するので、発注金額を低減することができる。

【0047】更に、別の発明としての発注管理方法は、少なくとも発注元部門情報と発注金額情報を含む発注情報を通信回線を介して受付けるステップと、発注金額情報を発注元部門情報に対応させて予め設定された予算限度額情報と比較するステップと、発注金額が予算限度額を超えない場合に発注元部門に対する発注許可情報を通信回線を經由して出力するステップとを有する。よって、発注部門が部門毎に定めた予算限度額を超えて発注することを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例を示す構成図である。

【図2】中央処理装置の構成図である。

【図3】記憶装置の構成図である。

【図4】業者マスタの構成図である。

【図5】部門マスタの構成図である。

【図6】商品マスタの構成図である。

【図7】商品テーブルの構成図である。

【図8】発注ファイルの構成図である。

【図9】発注管理装置の動作を示すフローチャートである。

【図10】他の発注管理装置の構成図である。

【符号の説明】

1 パーソナルコンピュータ

10 ファクシミリ装置

2	ファクシミリ装置	8	記憶装置
3	複写機	8 1	業者マスタ
6	公衆回線網	8 2	部門マスタ
7	中央処理装置	8 3	商品マスタ
7 6	集計処理部	8 4	商品テーブル
7 7	発注先選択部	8 5	発注ファイル
7 9	ファクシミリ編集部	9	印字装置